

文学部新入生へ

文学部長 潮見 浩

入学おめでとう。広島大学の文学部生として、これから4か年を過ごすこととなります。広島大学はいま東広島に移転していることは、すでに承知のことと思います。予定どおりに進みますと、本年度入学の文学部生は、最後の1か年を東広島の新キャンパスで過ごすことになりそうです。そうすると諸君は、新キャンパスでの最初の卒業生ということになります。これはあくまで物事が順調に進んでの話です。

広島大学文学部は、1949（昭和24）年の広島大学（当時は6学部、4分校、1研究所でした）の開学とともに発足しました。その前身は、1929（昭和4）年にできた旧制の広島文理科大学の文科系を母体としております。1953（昭和28）年3月には、新しくできた広島大学の最初の学生と、広島文理科大学最後の学生がいっしょに卒業しました。私は後者の方の卒業ですから、まだ古い殻をせおっているということになります。

現在の文学部は、文理科大学になかった地理学・地域学、ドイツ語学・ドイツ文学、言語学、フランス語学・フランス文学、考古学、インド哲学の各講座が増設完成し、哲学科、史学科、文学科の3学科の28講座、15専攻からなっています。講座というのは、教授、助教授・講師、助手各1名の教師が、専門化した学問を追究しながら、諸君の勉強の手助けをします。この講座が1つ、2つあるいは3つが集まって1つの教室が成りたっており、これを研究室とか教室とかよんでいます。私の所属しておりますのは、考古学の講座で、1つの講座で1つの研究室をなしております。

諸君の〇〇専攻というのは、この研究室・教室に所属しているということです。また、文学部の各専攻の上には、研究をさらに深めたい人には、大学院文学研究科博士過程（前期2年、後期3年）が用意されております。文学部の特色は、小さな講座からなっていること、学生の専攻は入学時からきめているところにあります。

これからの諸君には、2年次までの一般教育、2年次からはじまる専門教育の課程がひかえております。一般教育の人文・社会・自然にわたる幅広い分野の勉強は、各専攻の基礎となるにちがいません。文学部の専門の多くは、外国語の習得が研究のための必須条件となっています。したがって、この時期の勉強が一生の研究を左右するといっても過言ではありません。手をぬかないで勉強していただきたい。

大学は諸君を入学した時点から、一人前の人間として遇します。親や教師にべったり依存した生活は、このさい清算して独立した人間として行動していただきたい。私は文学部の各研究室を中心として、勉強だけでなく友人・先輩・教師との人間的な付き合いをのぞみます。最後になりましたが、昨年の秋、文学部学生が中国公安調査局から金品をもらって、学内の特定団体の活動についての情報を提供するという、まことに残念な事件がありました。このような行動は、大学の自治や学問・思想の自由をおかすおそれがあります。新入生の諸君も、大学の構成員としての自覚をもって、責任ある行動をお願いします。一言申しそえておきます。